

## 【57】天端と法面

河川分野の専門語としてよく使われる用語に「天端（てんば）」と「法面（のりめん）」があります。

天端も法面も、元来は土木工事の用語で、土を台形に積み上げて堤防を形づくったとき、てっぺんの平らなところを天端といい、天端へ地面から続く斜面のことを法面とか法（のり）というのです。河川に限らず、道路、鉄道の盛土でも使われますし、法面は道路、鉄道で山側の斜面や宅地造成の土の切り盛りでも使われます。

天端も法面も一般の人にはなじみのない言葉で“てんたん”とか“ほうめん”と読んでしまいがちです。土木工学科出身の私も、天端は旧建設省で現場に配属されるまでその読み方を知りませんでした。

うるさいことを言うと、天端は天が“テン”と音読み、端が“ば（は）”と訓読みの、いわゆる“重箱読み”で、法面は法が訓読みの“のり”、面が音読みの“メン”のいわゆる“湯桶読み”（ゆとう読み）で、いずれも少々ヘソ曲りな単語です。

しかし知らないと話が通じないので頭から覚えてしまいましょう。